



団長
たけうち しげやす
竹内 滋泰



日頃より蒲郡市行政にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

早いもので、自民党蒲郡市議団の団長を仰せ付かって早1年が経過しようとするそんな最中、ロシアは2月24日、ウクライナに対する軍事侵攻に踏み切り、未だロシア軍とウクライナ軍の戦闘が続いています。一日も早くロシア軍が撤退し、ウクライナ紛争が解決して、世界平和が戻って来る事を願って、蒲郡市議会は、3月8日(火)本会議一般質問の冒頭、決議案第1号「ロシアによるウクライナへの侵略を非難する決議」を急遽提出し、全会一致で可決いたしました。

「戦争はぜったいやっちゃいかん！」我が国は今年で戦後77年目を迎えました。先の大戦で310万人以上の方が犠牲になりました。蒲郡市でも毎年戦没者追悼式を挙行し、1,716柱の御霊を追悼するとともに、恒久平和を祈念しています。

戦後、この不幸な戦争体験を教訓として風化させず、日本がこれまで国の再建、経済成長を果たしてきたのは、長年に亘り安定して平和であったからこそだと考えます。

地球上では常に争いごとが絶えません。大きな争いほど、人々に大きな脅威をもたらします。そんな脅威を無くすために、蒲郡市がどうしたら世界平和に貢献できるのか考える必要があると思います。「平和」であることは人が人として生きるための基本としてあり、これまで以上に、これからも恒久的に日々の生活が安全で安心できることが私たちの願いであります。



幹事長
よびた たかひろ
喚田 孝博



ロシアによるウクライナへの侵略行為には、世界の多くの人が心を痛めているものと思います。3月8日に蒲郡市議会では、いち早く「ロシアへの非難決議」を全会一致で可決し、地方議会としての意思を明らかにしました。緊急的ではありませんでしたが、会派を越え、全議員が一致した思いで対応できたことはとても意義あるものと思っています。先日、あるTV番組のキャスターが、悲惨な現地からのレポートで「平和とは何と儚く、脆いものかを実感します。」とコメントしていましたが、まさに儚く、脆いものであるが故に、私たち人類が不断の覚悟と決意を持った行動なくしては成りえない「尊い」ものであることを改めて考えさせられました。

3月議会での一般質問では、『新型コロナ感染症対策』として3回目のワクチン接種の状況、小児ワクチンについて、マスク着用での子供たちの保育園、学校生活の影響等と『学校教育』に関して、新年度からの小学校高学年での「教科担任制」の実施に向けた取り組みと、今後の公立高校入試制度の改正に伴って、現在の2学期制の見直し等について質疑を行いました。



政調会長
おおさか はやし
大須賀 林



あと3年のうちに国道23号蒲郡バイパスが全線開通予定となっています。蒲郡の東の玄関口となる金野インターから大塚鎌倉交差点までわずか3.1kmの大塚金野線がいよいよ現実味をおびてきました。交通の流れがガラッと変わり、ラグーナ蒲郡と直結することから、多くの観光客が訪れることが予想され、沿道の犬塚地区がより発展していくことが期待されています。一般質問では道路の開通によって、東海道本線より北側が発展していくと想定され、大塚駅に北口広場を設け地下自由通路と線路北側の道路拡幅により蒲郡東高校生徒の通学の安全と利便性を向上させることを提案しました。また将来の土地利用を計画する都市計画マスタープラン、既存踏切廃止に伴う代替え道路について質疑を行いました。また、観光策として御堂山山頂に丹野城復元を提言しましたが、簡単に切り捨てられました。しかし今後ともこれらの施策が開通後の発展に寄与することを、粘り強く訴えていきます。



総務会長
すずき まさひろ
鈴木 将浩



令和4年3月定例会では「移住定住促進」についてテレワーク・ワーケーションの活用を中心に一般質問を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響で注目を集めるようになったテーマですが、移住定住促進に活用している自治体が多くあります。

例えば、企業社員がテレワークを活用して蒲郡で働いたり、蒲郡にオフィス自体を開設したりすれば企業誘致や移住定住促進に繋がります。また、ワーク(仕事)とバケーション(休暇)を組み合わせたワーケーションは、観光振興だけでなく、市外から新たな方を呼び込む意味でも移住促進に効果があると言われています。全国では公共が関わったテレワーク関連オフィスの開設事例が1,000件を超え、ワーケーションに関する様々な助成制度も設けられています。

せっかくのチャンスを逃さないように、蒲郡でもうまく活用して、企業誘致や産業振興、そして移住定住促進につなげて頂きたいと思います。引き続き、新しい考え方や取り組みを注目しながら、市に対して積極的に提案していきたいと思っております。



議長
おおむかい まさよし
大向 正義

令和4年3月8日、3月定例会において「ロシアによるウクライナへの侵略を非難する決議」を全会一致で採決しました。これは蒲郡市議会において歴史上画期的なことです。

しかし、私は、決議だけでは不十分であり、行動で下記のことを示すべきだと思います。まずは、議会として、ウクライナの子供たちと家族のために、人道支援募金をすることです。

そして国に対して次のことを要望すべきです。(1)ロシアに対する経済制裁強化のため、日本におけるロシアからの原油と天然ガスを段階的に削減するとともに、米国や中近東の産油国に増産の協力を要望することです。(2)ロシアからの輸入の原油は、日本全体の4%、天然ガスは8%、のため国民に電力やガソリン等の1.2%の節約をお願いすることです。

また、蒲郡市においては、「カーボンニュートラル」、「サーキュラーエコノミー」の観点もあり、再生可能エネルギー事業としての、廃天ぷら油の回収によるバイオディーゼル燃料の増進事業や、中長期的には、山間部の不耕作地を農地転用しての太陽光発電事業の推進が、求められます。



副議長
あおやま よしあき
青山 義明

今回の市政報告につきましては、蒲郡の観光とシティーセールスに繋がる話題を載せたいと思います。愛知県は2023年1月に始まるNHK大河ドラマ「どうする家康」を見据え、全県域を対象に、徳川家康ゆかりの地をPRする為の協議会を組織します。ドラマ放映を機に「オール愛知」で内外に発信し、観光客誘致や周辺観光の活性化につなげる施策を来年度行います。蒲郡市においては、徳川家康ゆかりの地が多く、例えば、竹千代君が人質として出された港が犬飼港であったり、桶狭間の合戦後最初に攻撃したのが今川家ゆかりの上ノ郷城であったり、また、蒲郡市には戦国時代より五井松平家・形原松平家・竹谷松平家等が存在し、大河ドラマのストーリーには欠かすことの出来ない場所であり物語に登場する可能性が非常に高いと関係者から聞き及んでいます。「どうする家康」では、主役の徳川家康役には松本潤さん織田信長役には岡田准一さん等発表され注目が集まっています。蒲郡市におきましては、この機会を逃すことのないよう、観光の発展、シティーセールスに繋ぐことが出来る様に蒲郡市や地元関係者の皆様と、取り組んで参りたいと思います。



東三河広域連合議員
おおば やすのり
大場 康議



<3月議会での一般質問の内容>

- 蒲郡貯木場の利活用状況と今後の企業用地としての埋め立てについて
- 蒲郡貯木場への原木輸入実績は昭和58年は80万トン超であったが、令和2年は0.6万トンと激減し、今は原木を取り扱う企業も撤退しており利用されていない。市は三河港蒲郡地区の活性化を図るため、貯木場を埋め立てて企業用地として有効活用できるよう、愛知県に対し港湾計画に位置付けるよう要望している。県が令和3年に取りまとめた三河港長期構想案では、自動車産業の持続的発展と次世代産業創出の目標があり、地域産業を発展させていくため未利用地の活用や新たな土地確保を挙げている。
- 蒲郡環状線(6工区)の整備状況と見直しについて
- 五井町西郷橋詰1号線(6工区)は五井町民会館西から中部区画整理地区界までの延長490m、幅員12m、区間の中央の西田川には新規に橋を建設します。橋の幅員15m延長14.7mのプレテンションpc床版橋を計画。西田川は、幅員8.1mを9.4mに拡幅し河床高は1.2m掘り下げ改修します。令和4年度から橋梁施工と河川改修に必要な進入道路の工事を実施する。

一般質問

竹内滋泰

- ① 令和4年度予算大綱について

大場康議

- ① 三河港港湾計画に関連する課題と今後の取組について
- ② (都)蒲郡環状線6工区整備について

喚田孝博

- ① 新型コロナウイルス感染症対策について
- ② 学校教育について

鈴木将浩

- ① 移住定住促進について

大須賀林

- ① 犬塚地区における国道23号蒲郡バイパスの令和6年度全線開通を見据えた市の取組について



※大向正義議長、青山義明副議長は議事進行のため一般質問なし。

